

審議会会議録

1	会議の名称	平成26年度第5回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成27年3月20日 午後2時～午後4時30分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	(1) 今後の子ども・子育て会議の進め方について
5	出席者名	委員 富井碧、木下照代、白井まり子、渡邊武雄、能城美佐子、鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、渡辺務、菊池定勝 事務局 前沢健康福祉部長、白石子育て支援課長、茂木子ども家庭係長、小野田保育係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括保健師
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成26年度第5回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・茂木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p>
佐久間市長	<p>3 市長挨拶 (市長退席)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立
事務局・茂木	<p>本日、井上委員、廣田委員、相澤委員が欠席で、12名の委員の方が出席でございます。よって、過半数を超えており、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・茂木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議は公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人はおりません。</p> <p>議事進行は、渡辺会長にお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録署名人
渡辺会長	<p>議題に入る前に本日の会議録署名人を指名いたします。本日の会議録署名人は、君塚委員を指名します。</p> <p>4 議題</p> <p>< (1) 今後の子ども・子育て会議の進め方について ></p>

<p>渡辺会長</p> <p>事務局・白石</p>	<p>議題（１）今後の子ども・子育て会議の進め方についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p> <p>前回の会議で、今後の子ども・子育て会議の進め方について、学童や支援センターなどテーマを決めて、少人数で意見を出していったらどうかという意見をいただきました。</p> <p>このため、次の会議で、これからの子ども・子育て会議の在り方、できればテーマを絞って、ご提案いただき、それを受けて、来年度以降の方向性を検討していくということになりました。</p> <p>つきましては、子ども・子育て会議の来年度以降の進め方について御意見を伺いたいと思います。事務局といたしましては、未就園児を中心として切れ目のない支援について検討いただければと考えております。</p> <p>○質疑・意見</p>
<p>渡辺会長</p> <p>鈴木副会長</p>	<p>事務局の説明が終わりました。ご意見等をお願いします。</p> <p>先般、次世代育成支援行動計画の会議が終了したと聞いております。この子ども・子育て会議が次世代育成の分野を併せて検討し、具体的に考えていくことになっていくとすると、ここに集まった委員だけでは、専門というか当事者として弱い部分があるのかなと思います。その辺を合同会議的な位置づけをしていくとしたら、課題、対象者別の専門の検討チーム、部会形式的なものを作ったうえで、そこでこういう分野が少し弱いのではないかとすることを議論していけば、補っていけるのではないかと思います。これからそういうことを検討する場を整えていけたらと思いますが、どうでしょうか。</p>

	<p>例えば障がい児童の就学支援について、支援のシートが出来たりと前進していると把握しております。それを今後続けていく、拡充していこうとしたときにどういう風にこの子ども・子育て会議の中で議論して深めていけるのか、実施事業として形にしていけるのかというのは考えていかななくてはいけないことだと思います。</p> <p>そのことだけではなく、会議の中で議論していくうえでいろんな課題が出てくるのではないかと思います。そこで、この会議で次世代育成の分野を吸収していくということの考え方を聞かせてください。</p>
事務局・白石	<p>次世代育成支援をどう進めていくかということですが、まず、今回の計画の中に次世代の施策を取り込みました。このことにつきましては、この計画の中に入っていますのでこの会議でこれからPDCAサイクルに基づいて、検討していただくことになっています。</p> <p>また、障がい児の指導の方の意見を聞くということですが、前回の次世代育成支援行動計画の会議の時にもご提案いただいております。この会議の皆さん委員の任期は11月で満了します。その際に障がい児を指導されている方を委員にということをご提案いただいております。そのことについては改選に併せて委員の選考を考えていきたいと思っております。</p>
鈴木副会長	<p>ということは、11月の任期まで、半年以上空白になるということですか。</p>
事務局・白石 渡辺会長	<p>そういうことになります。</p> <p>次世代育成の会議の委員の任期は3月までで、最後の会議が先週終わったので役目を終えたということによろしいですか。</p>
事務局・白石	<p>はい、その通りです。</p>

渡辺会長	この会議の委員の任期が11月までで、その改選のタイミングで障がい児に関わる人を委員に加えるということではよろしいでしょうか。
事務局・白石 鈴木副会長	それについては、これから検討することです。 今の会議の設置規定では、新たに加えることは難しいのですか。
事務局・白石	この会議は条例で委員は15名以内としています。現在15名の委員の方がいらっしゃいますので、これ以上増やすことはできません。 また、さきほど部会等というお話がありましたが、条例上この会議に部会を設置する規定がありませんので、正式にこの会議の下に部会を設置することは今の条例ではできない状態です。任意の勉強会等で議論を重ねることはできますが、会議の中で正式なものとして部会を設けることはできません。
鈴木副会長	条例上できないとなると、任意の勉強会としてそこで議論されたことは、あくまで任意であるので、この15名の意見としてするのなら、この会議の中の発言とするということじゃないといけないということですか。
事務局・白石	各委員の提出資料として、勉強会の検討結果を資料として提出いただくことは可能です。例えば国の会議でも委員提案で資料を提出等しておりますので、資料を提出いただいて、他の委員の意見を聞くということは可能です。
鈴木副会長	わかりました。
渡辺会長	この子ども・子育て会議の委員としては、11月までだと思うのですが、来年度この会議は11月の任期までに何回位開催をする予定ですか。
事務局・白石	予算上は3回開催することを考えています。そのうち1回は、改選を行った後に決まった委員の委嘱や会

<p>渡辺会長</p>	<p>長等を決めることとなりますので、11月13日以降は必ず会議を1回開催することは決定しております。</p> <p>残りの2回については、今の段階では決まっておりますませんが、市として諮問することがあればその時に開催します。ただ、今の段階でいつやるかは決定していません。</p> <p>来年度全部で3回のうち、そのうちの1回は11月以降で、あとの2回は4月から11月までの間に2回はやることができるということでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>11月以降に2回開催することもできますが、いつやるかについては、今後検討していくことになります。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>では、この子育て・会議をどうやって進めて行くかですが、事務局から説明があったようにテーマを絞って、未就園児を中心として切れ目のない支援策に取り組んで行ったらどうかと、また、鈴木委員からは、そこにさらに障がい児の支援を加え、そこに委員も加えて検討したらどうかと提案がありました。</p> <p>それらを踏まえて、皆さんどうでしょうか。</p> <p>それでは、白石課長の方から切れ目のない支援について、もう少し具体的なみなさんがイメージできるテーマがあればお願いします。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>切れ目のない支援というと、やはり未就園児がメインとなってくると思います。幼稚園や保育所に入っている子どもについてはそこで接点がありますが、幼稚園や保育所に入っていない子どもとその保護者については、例えば3歳児健診が終わると市との関わりはなくなり、あとは自らで行っていただく支援センター等での関わりだと思われます。そういうところを利用し</p>

	<p>ない方々が本来支援の必要な人たちではないかと考えますので、提案させていただきました。</p> <p>また、前回学童保育について、ご提案いただきましたが、学童保育については、市が補助金を交付して支援しています。今後はどのように拡充していくかですが、それは例えば他市でも取り組んでいるところがあるような直営でやるかなど、市としてどういう風に取り組んでいくか、どのような施策を打っていくかだと思います。そのように考えると事務局としては、未就園児に対する切れ目のない支援の方が皆さんに検討していただく内容としてふさわしいのではないかと思います。そのことについては、皆さんの実体験等も聞けますので、テーマとして適しているのではないかと思います。提案させていただきました。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>幼稚園や保育所を利用していない家庭について、支援が必要なのではないかということですが、実際に富津市で幼稚園や保育所を利用していない未就園家庭がどれ位いて、例えばこういうことが問題となっているとか、こういう支援が必要ではないかという具体的な問題というのは見えているのでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>ニーズ調査の回答の中で、多かった意見として、支援センターが独立したものではないとか、市役所は敷居が高くて行きづらいという意見が自由表記でありました。具体的な数字は今わかりませんが、就学前の児童についてはそういうところが課題だと思います。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>支援センターが無いとか、公園や図書館が無いなど、物的な資源が無いから「ない」と言っていると思いますが、実際家庭の中で抱えている問題が明らかでないとか、支援センターが必要なのか、それとも、もっと別のものが必要なのかということは見えてこないかなと</p>

事務局・白石	<p>思います。そこが把握できていると議論が進んで方向性が見えやすいかなと思ったのですが。</p> <p>ニーズ調査では、そこまで調査項目はなく、自由記載になってしまいます。ニーズ調査では図書館や公園の意見が多くて、ソフト面で何がというのはつかめきれておりません。</p>
鈴木副会長	<p>時間的なこともあってやれなかったこともいっぱいあったと思います。この会議では、みんなが子育てとかその支援の専門家ではないかと思います。色々な職域の人たちが集まって議論しようとしたときに、何が課題なのかということを見える化してもらわないといけないです。それを誰がやるかという行政だけでなく、我々も当事者として、こういう声があるとか、やってみたらこうだったとか、みんなの中で発言をしてこの会議の中で見える化していかないと会議ならないとか、みんなが意見を出し合う場となっていないので、そこが大きな課題だなと思います。</p> <p>アンケートで取れなかったことがあるというのは事実で、そうなのだろうと思います。そういった所は、直接声として集めてきて欲しいとか具体的に動き出さないと、現状から何も変わらないと思います。</p> <p>市としても予算があって、やりたいこともやれなかったということもあると思いますが、課題を出しあって、何かいい方法やお金をかけなくてもできる方法をみんなで議論することが大事だと思います。</p> <p>勉強会というスタイルが今日の会議の中で共有事項として、みんなの中で確認ができれば、その中で意見を出して行って、新たな課題や課題解決の糸口が見つけていけるのかなと思います。</p> <p>それには、こういった会議ですと皆さんが緊張して</p>

しまい、正しいことを言わなくちゃいけないと思ってしまって、委縮してしまうので、みんなの緊張をほぐしてざっくばらんに発言できる雰囲気を作っていくことが必要で、そのためには、勉強会みたいなスタイルがいいかなと思います。

それと、未就園の子どもに集中してということですが、富津市の計画はマイナス1歳の妊娠期から対象としていますので、妊娠期のことを考える、それは受診を何回できるかという切符のことだけではなくて、未就園の時期のこと、学童、学齢期のこと、障がいをもった子たちの育ちを支える仕組みをつくること、さらにもっと言えば、将来の父親母親を育てるという意味では小学生・中学生・高校生の子ども達がどうやって育児という文化に出会える場を作るかというのも、もう一つ大きな課題としてあると思うので、学校教育の方でも育児参加という機会を作るという必要だと思います。そのためには大きなまちづくりという視点で考えることが必要で、人がこの場所で生活する、生きる、育つということに安心と信頼が持てるまちというものをどうやって作るかを考えていかななくてはいけないことで、支援センターみたいなものを作るという入口だけの話ではないと思います。それはやっぱり皆さんが意見を持ってらっしゃるはずなので、勉強会みたいなところでみんなが発言できる場を形にしていきたいなと思います。

事務局・白石

まず、皆さんの任期11月までです。皆さんに議論していただいて、その結果として、平成28年度でこれをやろうとなった時に、予算に反映させるには予算要求の時期があります。9月遅くても10月位までには結論を出して、事務局で予算要求していかななくてはなりま

	<p>せん。それを考えるとあまり期間はありますが、9月位には、何らかの結論を出していただければ、事務局としてそれを検討することは可能です。そのためには、勉強会するにしても議論し尽くことが出来ないと思いますので、テーマは一つに絞っていただいた方が良いでしょう。</p>
菊地委員	<p>先ほど出ました障がい児の支援については、市の中でも色々な課で会議を設置していると思います。例えば教育センターですと、特別支援連携協議会という専門性を持った人たちや障がい児のお母さんの代表に出ていただく会議を設置しています。その中で話し合われていることや課題となっていることは、この会議に提案することはできると思います。また色々ところでやっている会議との連携というのにも必要となってくるのかなと思います。</p> <p>例えば就学前の子どもについて、社会福祉課でやっている子ども部会でライフサポートファイルをいかに広めることや活用してもらうかなどを検討されていると聞いています。</p> <p>ここが子ども・子育て会議という広い範疇ですから、色々な会議でのことをこの場で提案していただくということも大事かと思います。</p>
鈴木副会長	<p>それぞれ一生懸命やっていると思いますが、バラバラなんですよね。</p>
渡辺会長	<p>今の議論は、未就園児の切れ目のない支援からスタートして、その中で支援はハコものだけではなく、課題は浮き彫りにしなくてはいけないという指摘をいただきました。その中では、行政だけ、アンケートの結果だけに頼るわけにもいかないし、行政だけがこれが課題ですと決めつけるわけにもいなくて、ここに</p>

岡村委員

る現場に関わっている人たちが中心として、課題を浮き彫りにしていくということが必要なのかなと思われました。また、鈴木委員から勉強会という提案があり、その中でマタニティ、学童、障がい児とか将来お父さん、お母さんになる小中学生のうちから育児を考える機会を作ればということをお話していただくと提案がありました。菊地委員からは障がい児については、いろんなところで取り組んでいるので、連携が必要じゃないかと指摘がありました。

この中から絞り込んで行くことは必要かなと思います。例えば11月までの任期の中で何か結論を出して提言するものを作っていくのか、それとも次の委員に引き継いでいくのかで進め方が違うと思います。また、予算を反映させるには、少なくとも9月位までにはある程度決まっていないと、予算化するというのは難しいことだと思えます。それらを踏まえて、皆さんどういう方向でいったらよいか考えていただきたいと思えます。

私は、学童保育に携わっていますので、やはり学童保育について、ゆっくりお話しする機会を持ちたいなと思っています。学童クラブは今度小学校6年生まで入れる状態になります。先ほどのお話の小学生・中学生に子どもの保育に関することなどを覚えてもらうという場でもあると学童保育は思います。学童は一人っ子でも色々な子どもと関わるなかでお兄さんになったり、お姉さんになったりと現実的な生活の場だと思えますので、できればしっかりとした指導員さんを確保したいというのが現実的には思います。子どもがその人をみて尊敬できて、その人たちと一緒に素敵な生活していく場所を作っていきたいと思っています。学童

	<p>保育は、例えば指導員さんの資格について、必要性があまりなかったりと大切に見られていない部分があると思います。今後の子ども・子育ての新制度の中で変わっていくのは分かっていますが、現状がしっかりしていないので、これから変わりますよとなっても、力をいれて良い指導員さんを育てるためには、補助金をもらっても安い給料ですので、若い指導員、力を持った人達がなかなか集まってきません。なので、指導員さんをやってもらう方はどうしても世代的に高い方や学生の方になってしまいます。やはり学童を専門にできる人を各学童に必要だと思しますので、勉強会の中にも学童保育の場も入れて欲しいと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>学童にも質を高めましょうという意見で、ただ補助だけで、ただやれば良いわけではなく、個々のクオリティを高めてやっていきたいと、そのための取り組みについて議論をしてもらいたいとのことでした。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>学童では、計画の中で目標を持ったわけだからそれをどう実現する具体性を描きださないといけなくて、それは補助金だけで済むかという簡単な話ではないと思います。言われたように学童では指導員を探すのが本当に苦労しているのですよね。指導員をどうやって確保していくのかという課題が出てきて、計画に掲げた目標を達成するにはどういうことを乗り越えていくのかという具体的な話をしないと、目標を立てて、手を挙げてくれればお金を出しますとするけど、結局手を挙げてくれなかったと終わってしまうのは、悔しいかなと思います。手が挙がらなかったのはいらないということではなくて、やろうと思ったのだけど、形が整いきらなかったということはあると思うので、学童のことでもそういうことは考えなくてはいけないこと</p>

	<p>だと思えます。必ずしもみんなで知恵をだして実現できることばかりではないと思うけど、色々みんなで考えたけどやっぱり難しいということかもしれません、みんなで考えたということが大事だと思えます。</p> <p>なので、市と対決しようと思っているわけではなくて、そういう雰囲気というか、土壌を作り出していくということが大事だと思えます。勉強会を4つ作ってしまって、そこから一つずつ意見を言われると大変だと思われてしまうと困ってしまって、その中の3つ4つから意見が出ても、一つでも前向きに市が実現するのに努力したということでも始まるのであれば良いのではないかと思います。そういうことをやるにしても、スケジュール的に議会がいつあってどういう形で提案したら、議会の中で議論してもらえるのかとタイムスケジュールも市民にはわからないところで、さきほどの課長の話の中で9月までに何らかの提案ができるように、我々も一生懸命やっていかないといけないという覚悟をしていかないといけないということが確認できることでも違うのかなと思えます。</p>
渡辺会長	<p>鈴木委員は、9月位までにある程度一つの成果、結論づいたものをこの会議のなかで作っていききたいとのことですね。</p>
鈴木副会長	<p>作っていききたいですね。また、課長が言われたように未就園だけに限定してしまうと、学童から委員が出ているのにそれでは、面白くないかなと思えます。</p>
渡辺会長	<p>話を戻しますと、今後のこの会の進め方ですが、どういうものをテーマにして、どうやって進めて行くかを考えていただきたいです。</p> <p>今出ているのが、マタニティ、未就園児、学童、障がい児、それからそれぞれの連携というところでは。</p>

事務局・白石	<p>皆さんどうでしょうか。</p> <p>これは、具体的に計画を作るとかではなくて、我々の立場というのは、提言という形でよろしいのですよね。行政に対して、具体的にこのようなことをやったら良いのではないかということ提言するという形ですよね。</p> <p>おっしゃる通りです。提言という形で出していただければと思います。ただ、先ほど出ました学童の整備については、事業計画がありますのでそれはその中の議論になるかと思いますが、全般的な提言の形でいただければと思います。勉強会をもしやって結論が出れば、この会議に諮っていただいて、全員の意見を聞くという形はとれると思います。</p>
鈴木副会長	<p>提言という形でしか声が挙げられないのかと思いますが、この後の報告にありますがこの資料に出ているパブリックコメントの回答を読むと、「考えていないため修正は行いません」とスパッと切られているのを見ると、声を出すのも寂しくなってしまう気がします。やっぱり、なんでこうできないのかというのをお互いに意見を出し合って、擦りあわせたいうえで、どの辺からは歩み寄れるのか、いくら考えても無理なのかということを含めて、コミュニケーションが欲しいですよ。それは計画にありませんとか、考えていませんとかスパッと切られてしまうと、距離としてもものすごく間に溝があると思います。</p>
渡辺会長	<p>行政に子ども子育て会議から提言していくわけですが、前回までに皆さんの協力を経て、計画を立てましたよね。私から前にも申し上げましたが、それがいかに生きたものになるかということについて、意見</p>

を出していくことが必要だと思います。計画に魂を入れていくというか、これは使いやすい、こんなことができたら良いというようなことを形作る、方向づけるというようなことまで、この会議で踏み込んで良いと思っています。先ほど岡村委員から出ましたけど、学童で指導委員の確保というのが課題であるということであれば、このメンバーの中でこんなことをしたらどうですかというようなことを行政に上げれば、行政の方も何から何までダメですという訳じゃないと思います。それは使えますねということであれば、即実行に移せることもあるのではないかと思います。ということから、私はこの会議は具体的にやっていった方が良いのではないかと思います。この会議は話が広がってしまっていて、理想論みたいなことをずっと議論し続けてしまう懸念があって、それはやってはいけないわけじゃないのだけど、それを踏まえつつ、それをできるだけ具体的に施策に反映できるような議論していくというのが必要ではないかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。これはすごく難しい話ですが、市役所で集まってこうやって机並べて会議をやると、テーマがあってそれについてどうですかということになります。意見が出て、賛成、反対となって、じゃあこれにしましょうということになります。この会議は、そうじゃなくて、もっとクリエイティブなことまでやっていかないとこの会議の意味がなくなってしまうとか、計画からさらに踏み込んで、質を上げていくような議論をしていくことが求められているような気がします。

鈴木副会長

ブレインストーミングみたいにいったん頭の中を崩して、みんなが思う存分話し合える中から、知恵とか

松倉委員

アイデアとかが出てくるもので、それは今のこの形では無理だと思います。何か現状を守るだけしかできないとあれば、そこは、何とかしたいと思うわけです。この会議はそういう意味では、正式な会議で議題提案されたことをみんなで議論して進めて行くという会議と位置付けるとすれば、なおさらそうではないところで、自由な意見が出せる場を出し合っていきたいです。それは我々だけがやる勉強会ではなくて、課長、係長含め、課の人たちも入ってもらって、行政の枠を外して、一緒に考えるという仕組みを作り、アイデアについてこういうやり方をしたら、できるのではないかということを経営側からの意見も出せるような、そういう関係ができていくといいなと思います。それは、理想論でもなくて、本来のものだと思います。それにはこういう議会答弁みたいな会議ではできないのではないかと思います。

また、アンケート調査をするというのは、費用の面などから現実的ではないとは思いますが、もっと違う方法で何らか市民の方々の声が何か拾える方法があれば、先ほど出てきた未就園児の家庭の関わりの問題とかが見えきて、議論の道筋みたいなものが引けるのかなと思います。それには、どういう方法を取れば、そういう声が拾えるのだろうかと考えているのですが、例えば保育園や幼稚園が通っていない子たちが、必ずいくところは病院じゃないかなと思います。そこに協力をもらって、何らか簡単にアンケートのような意見を聞くことができるのかどうか、あるいは保健師の方々は地域の方々と関わっていると思うので、その専門家の方たちにヒアリングするとかあると思いますが、何か見えてこない、自由な討議と言っても、恐

<p>鈴木副会長</p>	<p>らく皆さん何を発言したらいいのだろうかとわからないのではないかなと思います。</p> <p>何を言っても良いと思います。ただこういう場じゃいけないということです。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>未就園の子どもというのが、私たち保健師が多く関わる場所です。新生児訪問や2か月児訪問では90%以上の子どものところに行っておりますし、3歳児前の乳児教室なども3割から半分くらいの人達が来てくれています。お子さんたちがどういう風に成長していった、お母さんたちがどんなことを困ったり、心配になったりしているか、日ごろの業務で知っておりますので、こういう場で現状については話が出るかと思えます。なので、私たちがこういう場で話をさせていただいて、皆さんで考える部分や課題になりうるところとか、どこの役割でどういう風に担っていきましようとかの話が出来たら、鈴木委員の話しているところとは近いのかなと思います。</p> <p>私たちも直接関わりを持つ方とは、随時話をしてはいますが、他職種というかこのような会議で皆さんとお話しすることがなく、こういう場所で一般のお子さん達のお母さんの話をする事はないので、もし、この会議で、そのようなことが取り上げられるとすれば、お話ができるかなと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>例えば今言ったことで話をする事はできますか。関わっている皆さんでこんなことが課題だなということがあれば、お話いただけますか。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>例えばお子さんの食事というのはいつでも皆さん心配していて、課題になっているところです。</p> <p>特に1歳までは、離乳食を作るということについて、初めての子育てをする方はどんな風にやったらいいの</p>

	<p>か、いつ2回食にするのか、3回にするのかというのがわからないまま、教室にいらっしゃいます。そういった節目のところで、みなさん月齢でお呼びして教室等をやっていますが、教室に来てみてこれくらいの量を食べさせていいたとか、もうこんなに進めていいとかというのは、その場に来ないとわからないことが多いです。それも集団でやることで意義があって、個別にやるより、他のお母さんの話が聞けて、その場で交流が図れることもあります。ただ、来る人は決まっています、来ない人には保健師の方が個別にフォローはしている状況です。</p> <p>乳児期の教室が5つほどありますが、予算編成の段階でその教室を削減してくれとあったのですが、必要性を説明して何とか維持しております。1歳半健診から3歳児健診までの2年の間に体格が変わったり虫歯が多くなったりするので、この4月からは2歳半の教室を始めるようにして、未就園の子どもの事業を入れてくことでフォローはしています。来られない方のことやなかなか手の届かないところ等もありますので、機会があれば色々な声を聞かせていただければと思います。</p> <p>未就園児の親御さんの不安があって、来てくれる人には色々行政の支援策もあるけど、そこに来ない人をどうやって呼び込むかというのが課題であるということですね。</p> <p>お母さんたちも良かれと思って色々やりたいのだけど、そもそもどうやっていいかわからない。その時期その時期にあったことを伝えていきたいなということは思っています。結果的に3歳児健診で体格が肥満ではなくて、普通だったとしても好き嫌いが多いの3</p>
渡辺会長	
事務局・圓川	

	<p>歳で改善するのはなかなか難しいので、ただ単純に太ってなければいい、痩せてなければいい、適度に食べるからいいという訳ではなく、それをどうにかしたいと思ったら、特に乳児期がすごく大事で、そこは私たちが一番関わるところだと思いますので、そここのところは特に力をいれてやっていきたいと思っています。ただ、こちらの人数もいなかったり、時間もそんなに無いものですから、本来はここまでやりたいというのはありますが、やりきれないというのもあったりするので、考えて今以上にやっていけたら、もっといいかなとも思います。</p>
渡辺会長	<p>松倉委員から子育て世帯からのニーズをどうやって拾うかという問題提起があって、保健師さんにも現状での課題等のお話をいただきました。松倉委員の意見というのは、本当のニーズとかがわからないと何を言っているかわかりづらいということではないでしょうか。</p>
松倉委員	<p>何か一つに絞ったらとすると、それではという意見があり、未就園児のことが問題なのか、何のことが問題として議論して行ったらよいかというのがつかめなと思います。</p>
渡辺会長	<p>テーマを絞り込んでいくという、話をしていますが、皆さんどうですか。</p>
菊地委員	<p>今話を聞いたりすると、今それぞれ担当しているところで、その担当している部分で、課題に思っていることはあると思います。その中で話していただくのだったら、重点を絞ってこのところで皆さんで議論してみましようということ是可以できると思います。今日は難しいと思うので、次回の時にその課題を持ち寄るだとかはできるかなと思います。</p>

<p>鈴木副会長</p>	<p>任期が切れるまでもう一回というとなることができるとなると、待っているのではなくて、これを何が何でもやってもらいたいというのがあればいいけど、そこでみんなが課題をみえる化していく、何かそれを乗り越える方法はないかと考えるということが意味のある大事なことだと思います。先ほどの話を聞けば、もっと他にもこういう話はあると思うし、それをやっぱりもっとみんなで話していける場があったら、みんなのそれぞれの想いが出せるのだろうなと思います。15人の委員が人数的にフランクに話すには多いので、少なくともいくつかのグループに別れて、それぞれが少し課題意識を持ってやっていける形があるといいなと思います。</p> <p>例えばPTA組織を通じて、PTAとして学童という問題をどう考えるのとか、PTAの人たちに調べてもらうとか、やり方としてはありますよね。何でもかんでも行政にお願いしてやってもらうのではなくて、わかりたいことが見えてくるとどうしたらよいかというのは出てくるのではないかと思います。</p> <p>課長の言った切れ目のないというのは大事で、そこに意味を見つけていこうとするとどこからどこまでを切れ目のないと考えたとすると、未就園だけの問題では決してないかと思っています。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今はテーマを絞り込むという話と、もう少し大きくという話ですが、具体的にテーマというのは何かありますか。もし勉強会やグループ分けという話の中で、具体的に絞り込んでこうしたらどうかということがあればお願いします。</p> <p>今の時点で何月までにこれに絞り込むという形にするのかというようなこともありますが、どうで</p>

<p>松倉委員</p>	<p>しょうか。</p> <p>鈴木委員と対極のことを言っているわけではなくて、例えば妊娠マタニティ期、未就園の期、学齢期、今後親になっていく世代、そこを分けてこの部分では何が課題になっていて、そこに対してこういうことをやっていこうという提案は予算のこともあるでしょうから難しいと思います。ここでの方向性や大切にしなければいけないことは何なのかということは話していき、イメージをつけやすいかなと、ずっと長く話してしまうと散漫な話になってしまうし、こういうグループを作って、その中で何が課題でどういう方向性をもって考えていこうかということから進めて行けると進めやすいかなと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>妊娠マタニティ期・未就園期・学齢期・親になっていく世代、その4つをどう進めていくか、一つずつ最初からやっていくか、4つを部会制として同時進行で行くのか、お考えはありますか。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>議論をしやすいのは部会制で小さい人数だと思いますが、少人数になると、きっとそれぞれ皆さんの予定とかあったりして、あまりにも少なくなりすぎる時があるかなと懸念があると思います。また、15人なので4つに分けるとかなり少なくなり、どういう風に分けるかなとは思いますが。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>今の提案は最初に出した意見にも沿っているので賛成ですが、15人ということを見ると、将来の親になっていく世代のことは次の委員に譲って、前の3つを5人ずつ3グループに分けて、そういう形で勉強会という形かわかりませんが、9月に提言するという思いでやるのではなく、課題をみんなで絞り出していくというところから始めていって、そうしたらこういうこ</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>とをやって欲しいよねということが出てくるかもしれないですね。出てきたときには提言するというスタンスの勉強会を認めてもらうということを今日確認したいところです。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>話がだんだんフォーカスされてきまして、3つ位の部会制ということになってきましたがどうでしょうか。事務局としていかがですか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>現実的に勉強会になりますと任意になりますので、正式な会議ではありません。みなさん任意で参加することになりますので、任意で割り振って勉強会でいいのかなとは思いますが。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>任意ということになると完全にボランティアで参加ということになるということですか。</p>
<p>松倉委員 事務局・白石 鈴木副会長</p>	<p>正式な会議でしたら会議の出席要請をしますが、勉強会ですとみなさん任意で集まっていたくことになり、条例上の会議とは異なってしまいます。あくまで現在の制度上の会議は全員集まっての会議になります。</p>
<p>事務局・白石 渡辺会長 鈴木副会長</p>	<p>それしか正式に認められないのですよね。 それは今の制度上はそうなっています。 この会にやったことを報告して、やったことをこの会議として認めればよいのではないですか。 それは構いません。 一番の問題は費用弁償ですか。 いらないっていえばいいわけですか。それはお金で限界を作ってしまうのはもったいないですね。ただ、みんながそういうものではなく、それぞれ考えがあるとは思いますが。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>会長の立場からすると、お金は出ないけど、みんなにやってくださいというのは、会長の立場からは言え</p>

富井委員	<p>ないし、言うものではないと思います。任意でやっていただくということは、できるだけみなさんに負担をかけないで活発な意見を言っていただきたいと思います。例えば仕事を休んできている方、途中で抜け出してきている方がいらっしゃいます。それぞれ事情がありますので、その中でどういう形ができるかを考えなければと思います。その辺を考慮入れて考えていただければと思います。</p> <p>3つに5人ずつ分けて、ボランティアで自主的に集まってとなると、仕事抜け出してきている人たちは、出られるのかなと思います。例えば2人とかなったときにうまく話が進むのかは不安です。この場では、出ますと言っている、仕事の人たちは何が入るかわからないし、そうなる仕事優先になると思うので、どうやったらうまく集まってやれるだろうと思います。本当に自主的に集まって5人ずつでできるのかなと不安があります。</p>
松倉委員	<p>2回は集まってこういう形が必ずできるということであれば、一定の時間はグループで意見を出し合って、何時にはその意見を会議で報告して、それについて議論をしますという方法もダメですか。やはり15人が常にいないとダメでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>それは可能です。同じ日の会議の中でグループごとに討議することは、構いません。</p>
松倉委員	<p>そうすれば2回ですが、確実にできる方法ではあるかなと思います。そこでその時期にかかわりのある職員の方にもアドバイザーとして入ってもらって、話をするという形であれば、確実にできるかなと思います。</p>
鈴木副会長	<p>始めてみないと始まらないので、可能性があることはやってみる方が良いと思います。お昼を挟んで午前</p>

	<p>中からやれるのかというのものもあるし、午後の中でも分かれる時間と全体会議とをやると、かなりの時間が限られるけれども、それでもやらないよりは、良いかなと思います。事前にメールとかを使って、会議で話す内容をこうやっていきたいとか宿題とか話し合うというように、やり方の工夫もできて、それでそれを持ち寄って何月何日の会議で出来れば、少しは動き出すかなと思います。</p>
事務局・圓川	<p>私も自分の仕事の中では、子どもたちの様子は自分の範疇ではわかりませんが、学童に行ってしまった子どもたちの学童での課題とか子ども達の何が問題というのはわからないですよね。それぞれの立場で子どもたちの実態がこうですよという報告という形で、小集団に分かれる前に共有することはどうでしょうか。</p>
渡辺会長	<p>部会をやる前に問題提起をする、課題を抽出するということですよ。</p> <p>それは部会ごとにできるかなと思います。例えばマタニティの部会の中で専門の知見の近い人たちが集まった中で話していけばできるかなと思います。</p>
君塚委員	<p>部会として集まるというのはいいことだと思いますが、最初にニーズ調査とアンケートをして、拾えなかった意見というのは結構あったと思います。それが現実的には私たちの力では叶えられなかった部分なのですが、回数の少ない中で次の委員さん達が踏み込んで、このことについて煮詰めて次の世代の人たちのために考えてあげられるような道筋をあと2回の会議の中で、方向性を踏まえた内容で話し合う。私たちが今まで関わった以外のことまで手を出してしまうと結局大きすぎて、何のことについて話し合ったらいいかわからない。私たちはニーズ調査とアンケートを踏まえて</p>

渡辺会長
君塚委員

会議をしてきたので、その中で拾えなかった、落としてきてしまった意見を次の委員の方々がどういう風に現実化していったらいいかという方向性を話し合っ
て、次の委員に引き継いだらよいのではないのでしょうか。

市の方ではこういうのは落としたけども、何年後に予算がついたらこういうことは検討ができるとか、こういうこともできるとか、机上の空論でできないことばかりが大きくなって現実化していかない。できなかったと終わってしまうことが続くといけないので、必要なことはこういうことで、ニーズはこういうことで、みんながこういうことをお願いしたいという意見のもとに次の世代に送れることを話し合った方が良
いかなと思います。

具体的に何かありますか。

学童の範囲では、指導員さんをどうするかとか、資格を持っている人たちを優先的にしまし
ょうとか、またマタニティのこととか、私たちが落としてきた要望の中で予算を含めて叶えられることはなんだろうと絞り込んで、話し合った方が現実的なのかなと思います。たくさんやって欲しいことはアンケートの時点でたくさんあったと思うのですが、私たちが叶えられなかった意見というのもたくさんあって、それは次の世代の子どもたちのために、次の委員さんたちがどうやって話し合っ
て、煮詰めていって、予算をどこから抽出してくるのかということ踏まえて、こういうことを検討していったらいいのではないかなと思います。次の委員さんたちがまたアンケートから始めるのかと言ったらそれは現実的じゃないと思うので、アンケート、ニーズ調査で叶えられなかった部分でも子ども達には

渡辺会長	<p>必要なんじゃないかという部分はあると思います。</p> <p>課題を絞り込んでということですか。必ずしも2回の会議にこだわらなくて、次の委員に持ち越しても良いというスタンスで会議を行っていくということですか。</p>
君塚委員	<p>現実的に2回の会議で叶えられることって、ほぼゼロに近いと思います。次の15人の委員がどういうことについて、私たちが頑張ったけどできなかったから、次はこのことについて、話し合ってもらえるといいかなと思います。</p>
渡辺会長	<p>テーマを絞り込んで部会制にするというのは、それはそれでいいということによろしいですか。</p>
君塚委員	<p>その中でもやり残したことを少し現実的に一步でも進めて、次の委員に申し送りしたらいいのではないかと思います。</p>
渡辺会長	<p>必ずしも結論にこだわらないってことですかね。結論を出すのが目的ではなくて、議論を深めて、それを継続的な審査課題にしてもいいのではないかという意見だったと思います。先延ばしありきではなくて、結論が出せるものは出して、方向性が出せるものは出していくけども、それがありきだけではないですよという意見かと思います。</p>
鈴木副会長	<p>我々がここまでやってきたことを我々自身が振り返りながら、これからどうして行ったら良いか意見を、今出していると思います。これから11月にどういった方々が委員になるかわかりませんが、仮に新しい方がいっぱい入ってきたときに新しい方に考えてもらうとするとまたタイムラグが出来てしまうので、少なくとも自分たちはこういうやり方を始めてみたという一つのモデルを残された時間の中で一つやってみる。やっ</p>

	<p>てみてよかったから続けてもらうとか、もう少し違うやり方があったのかもと引き継ぐとか、やってみて考える。成果を出さなければいけないと思うと肩に力が入りますが、成果を求めすぎないで、みんなで課題があぶりだすまでいけるかわかりませんが、課題が見えるようになってくるというのがまずは意味があるかなと思います。</p> <p>また、5人ずつのグループが心配だとのことですが、皆さんにどれだけ時間があるかだと思います。日にちが決まっていてその時間の中で、場合によっては複数のグループに参加するというのも、工夫してやれないことでもないと思います。まずは、なかなか時間を取りにくいとすれば、2回なら2回の中で、会議の幅を広げて全体会と部会をやるところからやってみるということをやれることでも前進かなと思います。</p>
渡辺会長	<p>部会と全体会議でやってみましょうか。皆さん。</p>
	<p>それではそういう形でみなさんに同意をいただいたという事で今後のあと2回の内の次回はそういう形ですすめていこうかと思います。それについて、ある程度ここで方向性を作っておかないといけないのですが、今出ているテーマとして、妊娠マタニティ期、未就園児、学齢期の3つのテーマですが、それでよろしいでしょうか。</p>
能城委員	<p>未就園期ですと、幼稚園と保育園に入っている人はどうなるのですか。未就学期のどちらでしょうか。</p>
松倉委員	<p>そこはどのように捉えるかですよ。</p>
鈴木副会長	<p>未就学だと、就園している子どもも入りますよね。</p>
能城委員	<p>入りますよね。とすると学齢期というのは、小学校に入った子ということですか。</p>

<p>渡辺会長 松倉委員</p>	<p>小学生以上ですかね。</p> <p>そうすると幼稚園とか保育所に通っている子については、議論がなくなってしまうかな。なので、未就園という言葉を使ってしまうと幼稚園、保育所に通っている子というのは除外になってしまうと思いますが。</p>
<p>菊地委員</p>	<p>幼稚園、保育所に行っている子と小学生は一緒にしていただいた方が、連携のこともありますので、その辺りも話し合いが出来ますので良いかなと思います。例えば障がい児の場合だったら、そこは情報がつながっていないといけない課題もありますので、一緒にしていただいても良いかなと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>幼稚園、保育所に通っている子と小学生は一緒のカテゴリーに入れるということですか。</p>
<p>富井委員</p>	<p>0、1、2歳でも保育園に行つて子もいると思うのですが、その子どもは小学生と一緒にグループに入るとのことですか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>例えば施策として捉えるなら、この年齢だったらこういった助成がありますよとかありますが、今回は施策で分ける訳ではなく、それについてどういう取組みをしようかということですよ。</p>
<p>能城委員</p>	<p>0歳、1歳でも保育所に通っている子は何らかの支援が受けられますよね。例えば発達障がいがあったり、ちょっと問題があるかなという風に感じられる子どもも保育士の目があったり、専門の先生に来てもらって見ていただいたりとかの支援が受けられることは可能です。ただ、例えば3歳、4歳でも保育所とか幼稚園のどこにも入っていない子どもについて、例えば健診にもいかないとする、年齢ではなくどこからも支援の手が受けられないことになります。なので、年齢ではなくて、未就園ということで保育所・幼稚園に行つ</p>

鈴木副会長	<p>ていない子と幼稚園・保育所に入っている子と小学生と分けた方が良くないかなと思います。年齢ではなく、そういう区分で分けた方が良くないかなと思いました。</p> <p>学校との接続の問題は大切な問題ですけど、それをやりだしたら2回しかない中ですごく大変ですよ。大切な問題で、すぐにやりたい課題だと思いますが、次でいいのではないのでしょうか。</p>
渡辺会長	<p>今、部会を3つに分けるということで、どこで分けるかと話をしていますが、妊娠マタニティの産まれるまでと、産まれてから幼稚園・保育所に入る前までの未就園、幼稚園・保育所に入ってから小学生の学齢期の分け方でよろしいのでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>学齢期の中に幼稚園・保育所に就園している子もいれるということですよ。</p>
渡辺会長	<p>そうですね。そういう流れだと思います。</p>
事務局・小野田	<p>学齢期は小学生で良いと思うのですが、未就園は0歳から6歳の中で、どこも通っていない子、家庭を対象として、あとはマタニティとした方が良くないのでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>幼稚園、保育所に就園している子というのは、そこに何らかの課題があるかもしれないけど、今回は今の施策の中でカバーするということですかね。</p>
渡辺会長	<p>幼稚園、保育所に通っている子は、学齢期の中でカバーするのか、分けるのかということですか。</p>
事務局・小野田	<p>幼稚園・保育所に通っている子は、支援を受ける機会があります。ここでは、どこにも通っていない外に出てこない家庭というのが、一番心配される場所です。例えば虐待があったりだとかというのは、健診に来なかったりと、そういう表に出てこない家庭が多いと思います。出てくる家庭の人は、誰かに相談したり、</p>

	<p>色々な機関に相談したりして支援を受けることができますが、出てこない人たちをどうするか、どう支援の手を差し伸べるかがというところが心配するところだと思います。保健師が健診来ない家庭を訪問した時に、ネグレクトだったとわかり、保育所に入れて支援をしていこうということもありましたので、就園していない子ども、家庭のグループの分け方を事務局としては希望します。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>学齢期前の人たちの問題として、どこにもつながっていないという所に焦点を一つ絞った段階で始めるということですか。</p>
<p>事務局・小野田</p>	<p>はい、そうです。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>保健師としては就園している、いないに関わらずというか、課題をどこに置くかだと思います。例えば食事の問題だとか生活のリズムの問題だとか、就園している、していないに関わらず、悪い場合はあるわけですから健診には皆さん来て欲しいと思います。就園している子は来なくていいとしていないのも、子どもの身体の育ちというものをお母さんに伝えたいからです。ハイリスクの子について取り組むのであれば、就園している、していないを分けて考えなくてはいけないのかもしれませんが、健康管理だというイメージでいけば分けてはいません。むしろ年齢で考えています。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>私は、年齢でいいと思います。学齢期前の子どもの問題としては未就園児のこととしてもこういう問題は幼稚園に通っている子にもあるよねというところで議論されてもいいと思いますが、一つの学齢期前の子どもの議論としては、未就園児というところにポイントを置いて、幼稚園や保育所に通っている子についてもこういうところはあるよねという議論が出てもいい</p>

岡村委員	<p>し、出るはずであると思います。一応学齢期の前としては、未就園というところから課題をあぶりだしていく方がいいのかなと思います。</p> <p>一番怖いのは育児放棄などの虐待だと思います。子どもが大変な思いをしている現実があるとすれば、未就園児のところが大きいと思います。年齢のことも関係があると思いますが、全てマタニティのところから全てつながっていることで、もちろんお母さんの気持ちも安定していなければ、そういったことになってしまいます。幼稚園・保育所に入っている、入っていないと関係ないことでもあると思うのですが、どうしても分けなくてはいけないのでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>時間、回数に限りがあるものだから、あれもこれもとやると広く浅くとなってしまうということがあることだと思いますが、少なくとも自分たちの任期中は、手が届かないところに考える視点を集中してあてることだと思います。この3つの分けた中で、次の委員が違う視点のあてかたがあるかもしれませんが、我々は絞った中でやるということではいかがですか。</p>
渡辺会長	<p>今までの話で、産まれる前と、産まれてから保育所・幼稚園に行っていない人、幼稚園から小学生。この中で幼稚園・保育園に行っている人を網羅するということでいいですか。</p>
鈴木副会長	<p>幼稚園・保育園にいつている人は、今は何らかの施策が講じられているので、そこの中で対応する。</p>
渡辺会長	<p>それは、今回は考えないということですか。何らかの施策の中で網羅しているから今回は、3つのグループに分けるとということですかね。それで皆さんよろしいでしょうか。</p>
富井委員	<p>次の会議からそういう話し合いをしたら、ア</p>

	<p>ンケート報告書とか見てこようと思うのですが、マタニティ期のところの問題は、どういう所から課題を確認すればよいのでしょうか。課題はその日に見えてくるものなのか、何か自分でしてきた方がよいのでしょうか。</p>
渡辺会長	<p>まず階層を3つに分けたテーマが決まり、それぞれに委員の皆さんがどこのグループの所属が決まってからその中でみなさんの中で、自分たちでテーマを決めていただこうと思っていました。問題提起をある程度していただいてもいいですし、こんなことをみんなでやりましょうと問題提起していただいてもいいですし、それぞれの中で課題を抽出してくるとしても良いかなと思いました。</p>
事務局・白石	<p>マタニティ期のことですが、ニーズ調査の中で妊娠期を振り返ってどんな支援があったら良かったかという意見は自由記載で聞いております。今のお子さんがいる人に振り返ってもらって、どういうことを感じましたかというアンケートはとっております。</p>
鈴木副会長	<p>自分がどこの部会に入るかというのと、部会の責任者を今日決めて、事前にメールや電話でも話をする機会を作って、その後ちょっと会議の前に健康づくり課の話聞いてみるとか、それぞれ部会ごとの情報収集をやることをしないと、会議を2時間とっても何かから始めるかわからない状況になるかなと思います。</p>
渡辺会長	<p>ここでみなさんの所属の部会と座長を決めて、その中で連絡を取り合っていて、テーマを決めるということよろしいですか。</p>
鈴木副会長 事務局・白石	<p>そこまで行けると次の会議の準備ができますかね。 提案ですが、一回休憩を取っていただいて、その間に所属を決めるのはいかがでしょうか。</p>

渡辺会長	<p>それでは、いったん休憩をしてその中で、所属を決めるとしましょう。</p> <p><休憩></p>
渡辺会長	<p>休憩の間にグループ分けが決まりまして、各グループ妊娠マタニティ期は、松倉委員、渡辺武雄委員、岩瀬委員、井上委員、相澤委員で、座長は松倉委員です。</p> <p>未就園児期は、鈴木委員、富井委員、能城委員、木下委員、白井委員で、座長は鈴木委員です。</p> <p>学齢期は、岡村委員、渡辺、君塚委員、菊池委員、廣田委員で、座長は岡村委員です。</p> <p>各グループの座長の方については、各委員と連絡を取り合っていて、次の会議までにテーマを決めておいてください。</p> <p>それで、次回の会議の開催というのは、まだ、全くの未定ですか。</p>
事務局・白石	<p>議題も決まっておりませんし、時期については未定です。</p>
渡辺会長 事務局・白石 鈴木副会長	<p>議題案としたらどんな内容ですか。</p> <p>今の時点では、まだわかりません。</p> <p>今、決まった人たちでネットワークを組んで、少し事前に調べることがあれば調べるために時間が欲しいので、4月とかはないですね。</p>
事務局・白石 渡辺会長	<p>4月は想定しておりません。</p> <p>子育て支援の地方創生枠というのは、この会議には関係ないですか。</p>
事務局・白石	<p>地方創生交付金ということで、国から富津市の枠ということで、事業をする予定です。子育て支援の関係としては、中学生以下のお子さんに対する商品券の交</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>付と備品の貸付けということで、1歳未満のお子さんを対象にしてチャイルドシートとベビーカーの貸し出しを考えています。これらは4月以降検討していくことになっています。</p> <p>それは、この会議で議論することと全く関係のないことですか。その絡みで会議を開くということはありませんか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>それはありません。市の事業として行うものです。会議に諮ることはないです。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>そうするとまったくテーマは決まっていないということですね。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>そうです。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>次のスケジュールは、私と副会長と事務局で相談して決めるという形でよろしいでしょうか。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>私の希望としては、6月以降でお願いしたいと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>イメージとしては、6月か7月位だと思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>早めに動ける日というのを教えてもらって、予定だけでも入れられるようにしたいですね。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>座長がいないと会議が進められないですよ。まず、座長の日程から決めて行くような形になると思います。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>それぞれのグループに行政側からアドバイザー的な人に入ってもらうことはできるのでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>担当を決めて、資料を用意するものがあれば用意いたします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>それは、事務局に連絡をすればよろしいですか。それと出来れば事務局としても副案のようなものも準備いただけますか。基本的には、委員の皆さんの中でまとめていただきますが、その中で行政として課題に思</p>

事務局・白石 渡辺会長	<p>っていることがあれば、その一つとして取り上げることもできると思うので、用意していただけますか。</p> <p>担当に用意させます。</p> <p>外に特になければ、それでは、議題1については、以上とします。</p>
渡辺会長	<p>5 報告</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p> <p>報告(1)パブリックコメントの結果について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局・渡邊	<p>資料1について説明</p> <p>質疑・意見なし</p>
渡辺会長	<p>(2) 保育料について</p> <p>報告(2)保育料について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局・小野田	<p>資料2について説明</p>
渡辺会長	<p>○質疑・意見</p> <p>事務局の説明が終わりました。ご意見等をお願いします。</p>
鈴木副会長	<p>保育料が急変してしまう家庭については、配慮があるとのことで据え置き期間を作るとのことでしたが、いつまででしょうか。</p>
事務局・小野田	<p>8月までです。</p>
鈴木副会長	<p>新しい市民税が算定されるときには、新しい基準でみるということですか。</p>
事務局・小野田	<p>9月からは、平成26年の収入で算定しなおしますの</p>

<p>能城委員</p>	<p>で、その時はそれで算定された保育料となります。</p>
<p>事務局・小野田</p>	<p>兄弟で入所の場合は、2人目は半額、3人目は無料というのは継続されますか。</p> <p>継続します。ただし、幼稚園の保育料については、2人目半額、3人目無料というのはありますが、幼稚園の部分0・1・2歳は入れませんので、幼稚園の子どもについては、小学校3年生から数えて2人目が半額、3人目が無料となります。例えば一人目が小学校1年生、二人目が幼稚園、三人目が保育所に行っている場合は、幼稚園に入っている子については小学生からカウントしますので、保育料が半額となり、保育所に行っている子のカウントは小学校に入るまでとなり、上の子が幼稚園に行っても減額の対象となりますので、保育料が半額となります。</p> <p>また、同時に3人保育所に入っている場合、3人目の子については、無料となっております。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>これは、案ではなくてもう決定事項でよろしいですか。</p>
<p>事務局・白石 松倉委員</p>	<p>現時点では、案ですがほぼ決定です。</p> <p>延長保育はやってないでしょうか。</p>
<p>事務局・小野田</p>	<p>公立では、土曜日の延長保育をやっております。そちらについても料金改定を行いまして、3歳以上で現行一月240円でしたが、毎週1時間だけ延長を使う場合で240円でしたが、今回の改正で100円としました。3歳未満児は同様の場合で600円でしたが、250円としています。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>保育標準時間11時間を超える延長保育はやっていないということですか。</p>
<p>事務局・小野田 松倉委員</p>	<p>現在は、公立はやっておりません。</p> <p>民間だけということですか</p>

鈴木副会長	民間で、1～2時間延長しています。
松倉委員	その金額というのは、民間の園が決めているということですか。
事務局・小野田	そうです。公立については、平成27年度から中央保育所で30分延長の7時まで実施します。
松倉委員	それは無料ですか。
事務局・小野田	料金は先ほどの金額の半額となります。
富井委員	公立保育所の短時間利用8時間を延長したときは、料金はとられるのですか。
事務局・小野田	基本的には想定はしておりませんが、延長することが常態化するようであれば、標準時間認定に変更するよう指導する予定です。たまに多少遅れるということはあると思いますが、それはサービスの一環として捉えています。
渡辺会長	他にありますか、他に無いようであれば、議題と報告と全て終了しましたが、その他事務局から何かありますか。
事務局・茂木	特にありません。
渡辺会長	それでは、長時間お疲れ様でした。平成26年度の第5回富津市子ども・子育て会議を終了いたします。引き続き、平成27年度もよろしくお願いいたします。
	閉会